

山梨県地域活性化促進事業費補助金 取組事例集

山 梨 県

山梨県地域活性化促進事業費補助金取組事例一覧表

平成18年度

【チャレンジ事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
1	NPO法人南アルプスファーム フィールドトリップ	山梨くだもの食品育成事業	2
2	NPO法人甲府こども劇場	幼児・低学年のための「あそびと表現活動プログラム」	4
3	NPO法人虹の谷	ひびきあう 心の声 心の色 子どもと親の夏祭り	6
4	NPO法人親子の心Q&A	親子わくわく教室	8
5	NPO法人みのぶ 小さき花 ,子ども園	少年塾	10
6	NPO法人キッズステーション	キッズステーション	12

【協働促進事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
7	NPO法人フィールド'21	運転免許センターにおけるアイドリングストップ、CO2対策自動車の普及啓発事業	14
8	劇団 さくらっ子	「寸劇で男女共同参画社会をわかりやすく推進していこう！」	16
9	朝日ヶ丘班景観委員会	朝日ヶ丘「牧場通り」牧場景観づくり事業	18
10	ミルキーウェイコンサート実行委員会	日本の象徴「聖なる富士山」を世界文化遺産に！ ミルキーウェイコンサート VOL.03	20

平成19年度

【チャレンジ事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
1	NPO法人子育て支援センター ちびっこはうす	やまなしおもちゃセンター事業	22
2	いのちの授業実行委員会	いのちの授業	24
3	NPO法人健康の駅やまなし	スマイルハーモニーコンサート	26
4	山梨ロールプレイ研究会	心理劇「虐待・その背景と構図から予防を考える」	28
5	NPO法人文化資源活用協会	金毘羅さん交流「むかしゃあうまかった」商品再 開発支援事業	30
6	山梨県作り手の会	水晶復権 - 山梨の水晶を知る・見る -	32
7	ゆりの木商店会	山梨市まちづくり推進事業	34

【協働促進事業支援】

番号	団体名	事業名	頁
8	NPO法人大学コンソーシアム やまなし	中心市街地における大学合同イベントの事業モ デルの構築	36
9	NPO法人富士山自然学校	山中湖村大平山におけるエコツーリズムの推進 事業	38

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

①

団体名	NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップ
代表者名	理事長 小野 隆
所在地	南アルプス市西野 1 2 0 2

1. 事業名	山梨くだもの食品育成事業
2. 実施時期	平成 18 年 7 月～平成 19 年 3 月
3. 補助金額	1,000,000 円 (事業費 2,052,391 円)
4. 経緯	<p>山梨県は果実王国といわれているが、県内の飲食業においては、地場産の果実を使用したメニュー開発には、消極的な現状が見られる。これは、一つには、地域の果実が、加工用に循環する仕組みが上手く機能していないためではないかと考えられる。</p> <p>そこで、農家の生産した果実を、NPO が様々な方法で一次加工して、その利用を一般の飲食業者に提案し、また、消費者にもその提案メニューを体験してもらう事で、新たな果樹特産品の開発と、利用方法が行われるのではないかと考えた。</p>
5. 事業内容	<p>県産果実の一次加工実験 季節の果実を農家より買い上げ、NPOが行政の持つ農産加工施設を活用して、一次加工を行い、冷凍・冷蔵・常温での加工果実商品を、実際に商業者に利用してもらうこととした。</p> <p>(1)冷凍 キウイで実施 ・ジャムパック イチゴ・スモモで実施 瓶詰めではなく、1kg入りの真空パックにて製造し、地元のパン屋さんで利用してもらった。 また試作したジャムパンは、ジャム作り体験の参加者に試食してもらい感想を聞いた。</p> <p>(2)冷蔵 スモモ・桃コンポートで実施 地元商工会のフルーツコンテストの食材として利用してもらい、同時に地域の商業者にサンプルとして提供した。</p> <p>(3)常温 ももジュース用保存で実施 飲みきりサイズでの桃ジュースを委託製造してもらい、需要を探った。</p> <p>農産加工の勉強会(講演会)の実施 長野の小池芳子さんを招いて講演会を行った。</p> <p>ジャム作り体験イベントの実施 ジャム作り体験イベントと、参加者への農産加工品のモニター調査を実施した。</p>



<p>6 . 事業成果</p>	<p>今回は色々な農産加工を実施する事で、その利用方法を探る事が出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャムパック加工 実際には地元パン屋さんでの利用が行われることとなった。 ・コンポートの加工 商工会のフルーツコンテスト用の食材として利用され、また、地元の飲食業者にもサンプルとして配布され、特産品開発用の食材として利用された。 ・長野の小池芳子さんをお招きして、「こんなに儲かる農家の加工農産物！これからは農家ブランドで勝負しよう！」と題する講演会を開催し、約40名の県内加工者や農業者の参加をみた。また、小池さんには、ジャム類を製造する加工施設にもお越しいただき、製造法や加工についてのアドバイスを受けた。 <p style="text-align: right;">講師：小池芳子さん</p> 
<p>7 . 課 題</p>	<p>桃のジュース加工について100%ストレートジュースの製造が、ろ過の段階で詰まりやすくなり、その対応をどうするかについて、長野県飯田市の(株)ミヤウチと派遣検討会を行い、ストレーナーの調整や、ろ過する網目の大きさの調整等を行うことで解決を図った。今後、大量に製造するための流れ作りが課題と思われる。</p> <p>さくらんぼコンポート加工では、1kg入りのパックとして製造、レストランオーチャード並びに南アルプス市商工会に試験納品したが、冷蔵庫の保存試験で、変色が見られ、商業用には利用できないという判断となった。今後、色の保持や、保存方法についての検討が必要と考えられる。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>農産物の一時加工については、地元飲食業者からの反応もよく、実際に加工品を継続して利用してもらえるものも出てきた。今後は、相手先の希望に合わせた数量と規格の調整を行い、継続的な果実利用を行っていきたい。</p> <p>また、果実のジュース加工は、道の駅やレストランなどでの反応が良く、改めて、果実の利用促進という点から、発展する可能性が見えてきた。果実の一次加工品の地元業者への利用が進むよう今後も努力していきたい。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>今回の助成により、ある程度まとまった量の原料の確保や、試験開発に予算が投入できた事で、幅広い業者との連携や、新たな取引が拡大する事が出来た。今後も新たなビジネスチャンスを創造する上で、このような補助金の存在は、力強い味方になってくれるものと思う。</p>

団 体 紹 介

平成15年より都市農村交流を行う、グリーンツーリズムの団体として発足。

地元の加工施設を利用した、ジャム作り体験や、ジャムの受託製造などを行い、平成17年にNPO法人化、地元の商工会や、地域の商業者と連携して、農産加工品を通じた特産品開発や、グリーンツーリズムの旅行商品の企画提案などを行っている。

主な開発商品は、ジャム作り体験ツアー、桃の花びらジャム、さくらんぼの種の温冷パッド、温泉湯ごねパン、甲州ブドウと桃のミックスジュースなど

ホームページ： <http://npo-farm.com/>

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

②

団体名	NPO法人甲府子ども劇場
代表者名	理事長 小笠原 みどり
所在地	甲府市高畑1丁目20-26

1. 事業名	幼児・低学年のための「あそびと表現活動プログラム」
2. 実施時期	平成18年10月～平成19年2月
3. 補助金額	299,000円(事業費599,130円)
4. 経緯	<p>当団体は4歳から加入することができ、親子会員の形をとっています。</p> <p>ところで、最近青少年の問題は、大きな社会問題となっています。青少年の問題は、0歳から3歳までの親子関係が重要だと言われています。そこで、0歳から3歳までの親子のコミュニケーションの場を異年齢で地域との関わりが持てるように考慮して企画することにしました。</p>
5. 事業内容	<p>1 三世代交流(アートフェスタ貢川参加) 公演「こま遊び」体験ワークショップ付き 対象 幼児～大人 出演 日本独楽博物館館長 藤田由仁他2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こままわし・南京たますだれ・ヨーヨー等の伝承遊びと鑑賞 ・公演終了後、実技体験指導を行った。 <p>2 くんくんきっず 2回 対象 0歳～3歳までの親子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回秋のまき - 「親子でハロウィン」 黒のビニール袋で衣装をつくり仮装大会 ・第2回冬のまき - 「おにをやっつけよう」 鬼の面をつくり節分の豆まきをして遊んだ。 <p>3 劇ごっこをしよう「森のたぬきさん」ワークショップ付き 対象 2歳～6歳の幼児 講師 劇団風の子東京(大森靖江)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加型の劇。たぬきのお医者さんと森の動物たちのお話。

	<p>4 わらべうたをうたおう「ふわふわ山の音楽会」 対象0歳～3歳の親子 ・子ども達に贈る初めての音楽会</p> 
<p>6 . 事業成果</p>	<p>これらの事業を実施して実感したことは、大人が心から笑って楽しんでいると、それが子どもにも伝わり、子どもも安心して楽しむことが出来るということです。「ふわふわ山の音楽会」の感想は「子育てに追われる日々ですが、優しい気持ちになれた時間でした。親子共々楽しめました」というようなものが多かったです。親子のコミュニケーションを作るということで成果があったと思います。</p> <p>また、「こま遊び」では老人ホームから10名程度の参加があり、地域の幼児からお年寄りまでの異年齢で楽しめたことも良かったと思います。</p>
<p>7 . 課 題</p>	<p>地域や他団体と協働をするときは、目的を明確にし、どこまでの責任をそれぞれが負い、また助け合えるのか事前に話し合いを丁寧にして、理解しておくことは大事なことと思った。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>今回の5つの事業のうち3つについては、プロの劇団（創造団体）に依頼したので、質の高い感動を味わってもらえたと思います。</p> <p>「くんくんきっず」については、地元の幼児教育を学んでいる現役の大学生とタイアップして行うことを検討しています。1年間継続して実施することにより、大学生にも幼児教育の体験学習をしてもらえたらと考えています。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>地域の中で他の団体と協働して、幼児からお年寄りまでのコミュニケーションの場をつくることのできたのは、地域の活性化に大いにプラスになったと思います。</p> <p>この手応えを地域活性化に生かすためには、1回だけの補助金では難しいものがあると思います。</p>

団 体 紹 介

甲府子ども劇場は、「観る」「遊ぶ」「表現する」「学ぶ」ことを通じて子どもの感性や自主性を育むことを目的にしているNPO法人です。大人も子どもも異年齢の中でお互いに育っていく、そんな会です。質の高い感動を味わおうとプロの舞台を鑑賞することを柱としていますが、子どもキャンプなどの体験学習もあります。

親子が一緒にいられる時間は、短いものです。親子で楽しい時間を共有することは、良い親子関係を築きます。会員になって一緒に楽しみませんか。

お問い合わせ先 NPO法人 甲府子ども劇場 055-232-7330

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

③

団体名	NPO法人虹の谷
代表者名	理事長 早川利喜
所在地	甲府市上今井町260番地6 五幸ビル4F

1. 事業名	ひびきあう心の声 心の色 子供と親の夏祭り
2. 実施時期	平成18年8月23日
3. 補助金額	520,000円(事業費1,040,554円)
4. 経緯	<p>NPO法人虹の谷では子ども達の芸術教室を開いて、子ども達の教育に関わっている。今の子ども達は障害児だけでなく、健常児も内面に多くの問題を抱えていることが虹の谷の教育活動を通して分かってきた。</p> <p>そこで、まず親も子どもも自分の内面を外に表現しお互いの心の声、心を分かり合うことを意識していてもらいたいと考え、その場を提供しようということになった。個人個人を育てていくこと、教育の原点を知ること、理解することがその後の親子のあり方を変えていくきっかけになってくれることを願い、事業計画をつくっていった。</p>
5. 事業内容	<p>チラシ配布 養護学校、ダウン症協会、自閉症協会、作業所、通所施設を中心に配布</p> <p>1. 日時 平成18年8月23日 10:00～15:30</p> <p>2. 場所 フレンドパーク武川(北杜市武川町)</p> <p>3. 内容</p> <p>水彩大壁画 キッズゲルニカキャンパスに水彩絵の具で自分の絵を描く。 計2枚の壁画を仕上げた。</p> <p>療育相談 療育相談の先生方と1対1で、自然の中で子どもを交えながらの相談を行った。</p> <p>療育、悩み相談カフェ 自然の中で飲んだり食べたりしながら、お互いの話をした。</p>



	<p>演奏会パーティ 障害児を中心としたダンス発表。</p> <p>障害児、健常児を中心としたドラム演奏を行った。全員が参加して踊れるコーナーもあり、参加者が踊りで参加した。</p> 
<p>6 . 事業成果</p>	<p>療育相談が、とても良かったとの声が多かった。ダウン症協会から、県へ是非同じような相談をして欲しいと要望が出され、平成19年6月から県育精福祉センターで日暮先生の講演と(療育)相談が実施された。</p> <p>水彩大壁画は、平成18年12月、県立美術館での「虹の谷の子ども達絵画展」に出品され、多くの方々から好評を博した。</p> <p>平成19年県立美術館主催の「新みなび」で、ワークショップとして平成19年7月8日、河口小学校体育館で同様の水彩画が描かれた。</p>
<p>7 . 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続していくための資金が不足している。 ・ 甲府市に近くて駐車場が広い公園を探している。
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>事業の波及効果がいろいろな形となって、その後に現れて、時代が求めているものを提供していく大切さをあらためて認識した。今後も、同じようなワークショップ的祭りを展開していく予定である。今後、NPO法人虹の谷は秋祭りを予定している。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>子ども達の心と親が向き合う場をどのように作るかという課題を、実現させていただいたことに感謝している。項目が細かく、予算通りにいかないところがあり、そこだけが困難であった。</p>

団 体 紹 介

2005年5月17日、障害児・者、健常児の健全な成長を助ける教育活動を行うため、水彩画教室をNPO法人虹の谷として設立した。水彩画教室、ドラム教室、ダンス教室、ダンス教室、立体造形教室、ファーム教室、クッキング教室を開催。障害児・者の自立を助けるとともに、子ども達一人ひとりが個性を大切に、健全な大人として成長してもらいたいとの願いから芸術教室を開き活動している。

NPO法人虹の谷

連絡先 055 - 243 - 0963 (虹の谷)

070 - 5599 - 7256 (早川)

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

④

団体名	NPO法人親子の心Q & A
代表者名	理事長 淡路 実春
所在地	甲府市相生1 - 18 - 1

1. 事業名	親子わくわく教室
2. 実施時期	平成18年9月～平成19年2月
3. 補助金額	285,000円(事業費570,455円)
4. 経緯	経済の発展により、自然環境の破壊が進み、地球規模で環境保全が叫ばれている中、私達が身近なところで出来る簡単なことから親子での取り組み、環境に対する意識を高める気づきの場を提供し、親子で参加し共に学び発見することで親子のふれあいの場を作りたい。
5. 事業内容	<p>1 開催期日・場所</p> <p>H18. 9. 9(北杜市) H18. 10. 15(甲府市) H18. 11. 19(甲府市) H18. 12. 9(笛吹市) H19. 2. 4(韮崎市)</p> <p>2 内容</p> <p>(1)石けんづくり</p> <p>(2)環境・リサイクルに関する講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者によるゴミの分別 ・石油の代替燃料となるBDFの紹介 ・CO₂の削減や環境型社会のしくみづくり <p>(3)紙芝居</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理に利用したあとの廃食油からBDFが作られる。 <p>(4)リサイクル品の展示</p>



講演会



紙芝居

<p>6 . 事業成果</p>	<p>廃食油を利用した石けんづくりでは、今まで棄てる物としか考えられなかった使った後の天ぷら油が、逆に油のよく落ちる石けんになることや香料として利用した柑橘類の皮も身と同じように全て使えることがわかり、工夫しだいで再利用しゴミの減量化が図れることを感じてもらえた。</p> <p>講義の中で参加者にゴミの分別をしてもらい(自治体によって多少分別が異なっていたが)より意識が高まったように思う。</p> <p>また、石油の代替燃料となるBDFを紹介することにより、CO2の削減や環境型社会の仕組みづくりをすることで環境破壊や自然環境の保全等について共通の意識を持ってくれたことと思われる。</p> <p>紙芝居では低学年用ではあったが、子ども達にも分かりやすいと好評であり、年齢を問わず理解を深めるには有効な手段であった。</p>									
<p>7 . 課題</p>	<p>親子で参加を募集したが、子どものみの参加になってしまったこともあり、危険負担の準備も考えておく必要性を感じた。</p>									
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>平成19年度の予定</p> <table border="1" data-bbox="480 943 1466 1305"> <thead> <tr> <th>実施日程</th> <th>実施内容</th> <th>実施場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19.8.23 (木)</td> <td>夏休み体験教室・石けんづくり</td> <td>甲府市高畑2 - 18 - 26 友信館</td> </tr> <tr> <td>H19.11 予定</td> <td>環境に関する講演イベント事業に協賛した体験教室</td> <td>未定</td> </tr> </tbody> </table>	実施日程	実施内容	実施場所	H19.8.23 (木)	夏休み体験教室・石けんづくり	甲府市高畑2 - 18 - 26 友信館	H19.11 予定	環境に関する講演イベント事業に協賛した体験教室	未定
実施日程	実施内容	実施場所								
H19.8.23 (木)	夏休み体験教室・石けんづくり	甲府市高畑2 - 18 - 26 友信館								
H19.11 予定	環境に関する講演イベント事業に協賛した体験教室	未定								
<p>9 . 補助金について</p>	<p>事業を計画するときには資金が第一の課題であり、補助金があることは重要でした。間接的な人件費(事務費)が対象になったり、補助率がもう少し高いと大変助かります</p>									

団 体 紹 介

この法人は、社会の一般の親子に対して人生の答えは生活の中にあることを基本に、親子の愛情あふれる関係に基づく親子のマナーレッスン、無料カウンセリング協力事業、講演会の講師派遣事業に関する事業を行い、青少年の健全育成に寄与することを目的として、社会教育の推進を図る活動や子どもの健全育成を図る活動を行っています。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑤

団体名	NPO法人 みのぶ 小さき花, 子ども園
代表者名	理事長 岩本伊津美
所在地	南巨摩郡身延町角打1245

1. 事業名	少年塾
2. 実施時期	平成18年7月10日～平成19年3月30日
3. 補助金額	560,000円(事業費1,166,722円)
4. 経緯	<p>今は、少子化により、隣近所の子どもたちだけでは、集団、子ども社会を構築出来なく、また、凶悪犯罪等の社会状況により、子どもは集団的な外遊びが出来ない状況です。</p> <p>子どもは遊びを通じて学び成長します。遊びがなければ元気に育ちません。また、食の乱れにより、キレル子やニートが育っていくのだと思います。子ども社会が作れる集団的な外遊びと食材作りからの料理と食べ方等の食育を通して、食を正すことをNPOみのぶ小さき花, 子ども園の子育て支援事業の一環として実施します。</p>
5. 事業内容	<p>少年塾は、あそぼうキッズと食育キッズの2つのキッズで構成</p> <p>(1) 遊ぼうキッズは、子ども園を開放し、年中児等を集約して集団的な遊びが出来る場をつくり、故郷の山や川などの自然から学ぶテーマを決めて、参加者を募集し、NPOの社員やサポーター、地元の漁協、猟友会、森林組合等の協力により子どもの安全を確保して実施する。</p> <p>(2) 食育キッズは、パンづくり教室と食材づくり教室があります。パン作り教室は、手作りパンの料理、食べ物の基本、食物の力、食べ方などを言葉だけでなく体と感性で理解してもらいます。</p> <p>食材づくり教室は、農業、林業、漁業の体験を通じて、食物が命だということの理解と食物を自ら作り、また、収集する能力を付けることを目的としています。</p>



<p>6 . 事業成果</p>	<p>子ども園の開放と子ども外遊びでは、園児と児童の異年齢の交流がなされ、古き良き時代の子ども社会のような環境が出来た。自然の学校では、野生動物の生態を子どもたちが楽しく考え理解し、また、自然素材を利用したアートが子どもにも大人にも好評だった。身延つみ木広場では、積み木を全員で作ることは、あたかも社会をつくることにつながることに、それが初めは一人ひとりをつみ木をしていたのに全員のをふと上からみんなで見ると、それはみんなの町なのだと感じたことと、全員で力を合わせて町をつくることは大変楽しいと子どもが感動した。</p> <p>パン作り教室では、指導計画書による指導内容を実施することができた。自宅で教えてもらったパンをさっそく自分でつくるからと、朝4時から親に材料を欲しいと言って困らせた子どももいたようです。交流事業では、茶道を通じて、心の落ち着きを身につけることが出来た。野菜作りでは、それぞれの体験を通じて食べる理解が深くなった。</p>
<p>7 . 課 題</p>	<p>外遊びは、正に自然の状況に左右される。当初、奥山で実施予定であった外遊びは、熊、イノシシ、猿が食料不足により、危険な状況にあったので、実施を断念した。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>パン作り教室では、キッズ クラブとしてクッキングクラスと茶道教室として発展させる予定です。子ども園の開放は継続し、子ども外遊びは、年間計画を今年度は出来るだけ早急に決定する。</p> <p>野菜づくりは、専用の耕地を確保できたのでより充実できると思う。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>山梨県も財政上は大変だと思いますが、公共事業等の見直しをして、本地域活性化事業類型の事業が社会に認識され事業として成り立つまで助成していただきたい。</p>



<h2 style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">団 体 紹 介</h2>	
<p>NPO法人みのぶ 小さき花 ,子ども園は、子育ては、良い家庭と良い地域であることが必要なので、これらを一体と捉えた活動とするため、地域住民に対して地域密着型の幼児教育に関する事業及び家庭教育の一環とし、消費者の保護に関する事業、まちづくりに関する事業並びにまちづくりの推進を図る事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目的として、平成16年に身延町角打に設立したNPO法人です。その活動は新聞、テレビ等でも何度か紹介されました。</p>	

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑥

団体名	NPO法人キッズステーション
代表者名	理事長 河野めり子
所在地	北杜市須玉町藤田441番地2

1. 事業名	キッズステーション
2. 実施時期	平成18年7月～平成19年3月
3. 補助金額	761,000円(事業費1,523,400円)
4. 経緯	<p>地域であたりまえに、ありのままに生きることができる社会を目指して立ち上げた事業で、子どもたちが生き生きと生活するために当事業所が何をすべきかと「療育のあり方」を考えてみました。</p> <p>特に余暇活動の中で、目的を持って生活をする事の大切さを痛感し、療育の中でも全人的活動として生きる“動”の音楽と“静”の書道をプログラムの一環として考えました。子どもたちが豊かな環境の中で生き生きと過ごし、子どもたちをかかえる家族が、その家族を囲む地域がより一層豊かになることを目指して実施する方向を考えてみました。</p>
5. 事業内容	<p>音楽療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を通して心の言葉、身体的機能に働きかけます。個別でも集団でも応じるように対処します。 ・毎週金曜日の放課後の活動として、いくつかのグループに分けて活動します。  <p>書道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書の精神でその時の行事・季節にあった文字を選び、手本を見て書きます。 ・心の落ち着きを保ち集中力を養います。 

6 . 事業成果	<p>「障害の種別や有無に関わらず、地域の中で活動し、全体の福祉に寄与すること」という、はじめに掲げた当事業所の目的は、日々の経過と共に音楽・書道への参加者が増えたことでも予想以上に達成したと思います。</p> <p>近隣の方々の理解・協力を得ることもできました。行政も地域ぐるみで応援して下さいます。</p>
7 . 課 題	<p>“地域の中であたりまえ、ありのままに生きる”という大きな課題の足元に近づけた事は確かですが、まだまだ多くの問題が残されています。今、私達にできる事として、スタッフとしての資質の向上、療育プログラムの充実・設定、行政への協力依頼等、地域の発達支援センターとしての役割の一部を担えるための事業のあり方を模索しています。</p>
8 . 今後の展開	<p>音楽・書道を通して、子どもたちの支援の輪が広がってきたことは確かです。今後はこの2分野に限らず、療育活動の場をアート・自然・スポーツ等へ広げプログラムの充実を図ります。その中で、子どもたちが抱える問題や心配が少しでも軽減できるように相談事業にも力を入れたいと思います。</p>
9 . 補助金について	<p>平成18年6月17日が当事業所の開所式でした。まだ1年目という前の見えない活動の中で、経済的援助は本当に助かりました。当事業所が子どもたちを通して、地域を活性化していくという試みは、確かに少しずつ定着してきたと思っています。</p>

団 体 紹 介

障害の種別や有無に関わらず支援を必要としている多くの子どもたちに対して、できるかぎりの援助活動を行い、それによって、子どもたちを囲む家族やその家族を囲む地域をより豊かな生活環境とする事に寄与する事を目的とする団体です。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑦

団体名	NPO法人フィールド'21
代表者名	理事長 坂本 昭
所在地	甲府市飯田4-1-21

1. 事業名	運転免許センターにおけるアイドリングストップ、CO2 対策自動車の普及啓発事業
2. 実施時期	平成18年8月～平成19年2月
3. 補助金額	401,000 円 (事業費 1,091,650 円)
4. 協働のパートナー	行政：山梨県循環型社会推進課、山梨県総合交通センター その他：山梨県地球温暖化防止活動推進員、NPO、大学生
5. 経緯	<p>地球温暖化防止対策として、平成16年12月、山梨県から山梨県地球温暖化防止活動推進センターに指定され、民生での対策を中心に活動を行ってきた。その中で、家庭からのCO2 排出量とともに県内でのCO2 排出量増大の原因となっている自家用車への対策が大きな課題となっている。平成17年10月、山梨県においてアイドリングストップに関する条例が施行されたことに伴い、効果的な対策として、運転免許センターにおいてアイドリングストップキャンペーンの展開を行い、県民に広く啓発・促進を図るものである。</p> <p>温暖化防止活動を官民一体となって行うことで、広く県民にも浸透し、理解・支持されると共に、県が取り組んでいるアイドリングストップ活動への大きな効果が期待される。</p>
6. 事業内容	<p>山梨県総合交通センターのご協力で、入口ロビーを会場として借用させていただき、テーブルを配置し、温暖化防止パンフレットの配布とエコドライブ宣言のお願い、エコドライブ相談窓口を常備し、免許更新者や取得者に地球温暖化防止に関する啓発・啓蒙を図った。</p> <p>役割分担</p> <p>行政：エコドライブ宣言のお願い 地球温暖化防止推進員・NPO・大学生（インターンシップ）：パンフレットの配布、エコドライブアンケート、相談窓口、エコバッグの配布（レジ袋削減対策）</p>



アンケートの収集

7 . 事業成果	<p>7ヶ月間のキャンペーンで、免許更新者や免許取得者約2,800名にパンフレットを配布し、そのうち約800名にアンケートとエコドライブ宣言をしていただきました。</p> <p>アンケート結果から、約7割の方が条例を知っている、聞いたことがあると答えています。山梨県で排出されるCO₂の約4割が自動車から出されていることは、5割程度の認識でありました。</p> <p>今回のキャンペーンでは、CO₂低減の具体的なアイドリングストップ方法をパンフレットを通じて、周知・啓発することができました。</p>
8 . 課 題	<p>総合交通センターは、特に運転免許更新者が対象であり、更新者に時間の余裕がないためか、パンフレット配布数に対してアンケート回答者とエコドライブ宣言者が少なかった。できうるならば、更新講習カリキュラムにエコドライブについて織り込んでいただけたらと思います。</p>
9 . 今後の展開	<p>19年度以降も一人でも多くの運転者にエコドライブやアイドリングストップの必要性を認識していただくため、山梨県総合交通センターや山梨県森林環境部循環型社会推進課と協働でキャンペーンとアンケートを行い、地球温暖化防止活動の推進を図って行きたいと思えます。</p>
10 .補助金について	<p>補助金交付要綱に補助率は対象事業の1/2以内に規定されているため、自己資金のないNPOでは事業継続が難しい。</p> <p>事業審査会でプレゼンテーションも行っており、事業内容は把握されているので、選考委員会審査で事業内容を精査し補助率を決定されても良いのではないかと。</p>

団 体 紹 介

山梨県地球温暖化防止活動推進センター（NPO 法人フィールド'21）

住所：〒400 - 0035 山梨県甲府市飯田4 - 1 - 21

TEL&FAX：055 - 228 - 3830

E-Mail：field-21@rose.plala.or.jp

H.P http://www15.plala.or.jp/yamanashi-f21/

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑧

団体名	劇団 さくらっ子
代表者名	清水武子
所在地	甲府市

1. 事業名	「寸劇で男女共同参画社会を分かりやすく推進していこう！」																												
2. 実施時期	平成18年7月～平成19年3月																												
3. 補助金額	300,000円(事業費614,392円)																												
4. 協働のパートナー	山梨県企画部県民室男女共同参画課 男女共同参画推進センター																												
5. 経緯	<p>未だに人々の意識や行動・習慣の中には、女性に対する差別や偏見、男女の役割に対する固定的な考え方があり、男女の多様な生き方を阻害していることは否定できない。寸劇表現により、自然に気がついてもらい、一人ひとりが、生きやすい社会を推進して行くことが目的である。</p> <p>また、今の社会情勢を考えると女性の社会進出が早急に求められており、そのためにエンパワーメントの考え方が浸透し、いろんな決断の場に女性が積極的に参画することが必要不可欠だと思う。</p>																												
6. 事業内容	<p>県内各地において、男女共同参画推進センターから情報提供・助言、会場の提供等を受け、連携しながら、男女共同参画社会推進のための寸劇の公演やワークショップを開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施期日</th> <th>実施場所</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18.7.23</td> <td>男女共同参画推進センター ぴゅあ富士(都留市)</td> <td>地域づくりセミナー</td> </tr> <tr> <td>H18.9.21</td> <td>忍野村役場</td> <td>男女共同参画講座</td> </tr> <tr> <td>H18.10.1</td> <td>男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)</td> <td>フェスタ2006</td> </tr> <tr> <td>H18.11.25</td> <td>男女共同参画推進センター ぴゅあ峡南(南部町)</td> <td>フェスタ2006</td> </tr> <tr> <td>H18.12.8</td> <td>白根はーとふるセンター(南アルプス市)</td> <td>男性学講座</td> </tr> <tr> <td>H18.12.17</td> <td>高根ふれあい交流ホール(北杜市)</td> <td>ぴゅあ総合パートナーシップセミナー</td> </tr> <tr> <td>H19.1.28</td> <td>男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)</td> <td>ぴゅあ総合自主事業</td> </tr> <tr> <td>H19.2.18</td> <td>男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)</td> <td>ワークショップ 「演劇の基本を学</td> </tr> </tbody> </table>		実施期日	実施場所	事業名	H18.7.23	男女共同参画推進センター ぴゅあ富士(都留市)	地域づくりセミナー	H18.9.21	忍野村役場	男女共同参画講座	H18.10.1	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	フェスタ2006	H18.11.25	男女共同参画推進センター ぴゅあ峡南(南部町)	フェスタ2006	H18.12.8	白根はーとふるセンター(南アルプス市)	男性学講座	H18.12.17	高根ふれあい交流ホール(北杜市)	ぴゅあ総合パートナーシップセミナー	H19.1.28	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	ぴゅあ総合自主事業	H19.2.18	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	ワークショップ 「演劇の基本を学
実施期日	実施場所	事業名																											
H18.7.23	男女共同参画推進センター ぴゅあ富士(都留市)	地域づくりセミナー																											
H18.9.21	忍野村役場	男女共同参画講座																											
H18.10.1	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	フェスタ2006																											
H18.11.25	男女共同参画推進センター ぴゅあ峡南(南部町)	フェスタ2006																											
H18.12.8	白根はーとふるセンター(南アルプス市)	男性学講座																											
H18.12.17	高根ふれあい交流ホール(北杜市)	ぴゅあ総合パートナーシップセミナー																											
H19.1.28	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	ぴゅあ総合自主事業																											
H19.2.18	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(甲府市)	ワークショップ 「演劇の基本を学																											

			ぼう！」	
	H19.3.4	男女共同参画推進センター ぴゅあ総合（甲府市）	ぴゅあパフォーマンス スタin やまなし	
7 . 事業成果	<p>県の事業と連携することによって山梨県全域で上演でき、その活動範囲が大いに拡大した。</p> <p>県内の活動の中で、参加者の皆様から「わかりやすい」「はじめて男女共同参画がどういうものかわかった」「妻たちが考えていたことがわかった」「さすが劇団さくらっ子」といった高い評価をいただいた。</p> <p>国立女性教育会館で行ったワークショップ「よっちゃばれ、寸劇のノウハウ教えちゃう」は、立錐の余地のないほどの盛況ぶり、日本中から集った多くの方々から山梨県のパフォーマンスをとおした推進活動が大変高いレベルであるという評価をいただいた。</p> <p>プロの劇団「プレイバックーズ」をよんでの市民企画講座では、参加いただいた方々とともに演劇の基礎を学ぶことができた。</p>			
8 . 課 題	なし			
9 . 今後の展開	<p>今まで、「地域」「家庭」「女性の健康」「男性問題」「女性の自立」といったテーマを寸劇にして男女共同参画の推進活動を行ってきたが、今後は、これをさらに「企業」「子育て」「国際協調」といった分野に広げていきたい。</p> <p>新たなチャレンジとして、今、世界中で叫ばれる「温暖化」にも目を向け、小学生対象の「パソコン紙芝居」をつくって温暖化問題を訴えていきたい。</p> <p>行政との連携を重視すると同時に、今後は「小さな町おこし」に繋がる「さくらっ子」独自の企画にも取り組んでいきたい。これについては「街探究」を行い、「入ってみたい店」として、さしあたり「ファッション・飲食関係」の店のマップづくりをしたい。</p> <p>会員の演技力の更なる向上を図りたい。</p>			
10 .補助金について	<p>「劇団さくらっ子」の活動は、補助金によって継続可能であるということはいまでもありません。しかし、寸劇という特殊性ゆえに、事業経費が補助金の計上可能経費の範疇に該当しないことが多々あります。計上可能な経費の枠をもう少し柔軟なものにしていただければありがたいと思います。</p>			

団 体 紹 介

劇団さくらっ子は、平成16年に寸劇を通して男女共同参画社会を推進することを目標に結成されました。

男女が共に、「一人ひとりが生きやすい社会の実現をめざす」ため、意識改革をして、少子高齢化し沈滞した日本社会を活性化するために、パフォーマンスを最適な手法と考え、地道な活動を続けている団体です。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑨

団体名	朝日ヶ丘班景観委員会
代表者名	成田英士
所在地	北杜市高根町

1. 事業名	朝日ヶ丘「牧場通り」牧柵景観づくり事業
2. 実施時期	平成18年10月29日～12月12日
3. 補助金額	430,000円(事業費888,705円)
4. 協働のパートナー	山梨県中北林務環境事務所
5. 経緯	朝日ヶ丘班牧場景観づくりの歴史は平成5年より始まり、15年ほどの月日を経ようとしています。一昨年より牧柵板の傷みが激しく、取り替え事業を行って参りました。平成18年におきましても、総距離約2キロの取り替えを補助金活用の下に終えることができました。協働事業のパートナーとして、山梨県中北林務環境事務所の森づくり推進課の職員と協働できたことで、私たちの補修事業がカラマツ間伐材の有効利用に貢献できる新たな価値を生み出してくれました。今後とも意義を強調して参りたいと考えます。
6. 事業内容	<p>八ヶ岳南麓、大泉の林業者、小宮山林業を通して、カラマツ板材を入手しています。小宮山社長の話では私達に売る板材は、八ヶ岳南麓の県有林のものということでした。県産材の活用や需要拡大が叫ばれる今日、私達の有効利用は大きな意義のあることと思います。</p> <p>[内容]</p> <p>八ヶ岳南麓に関する林業講座の開催</p> <p>カラマツ材を使った木工教室(巣箱づくり)</p> <p>県産材活用のパネル展の開催</p> <p>事業説明の看板設置</p> <p>牧柵の補修(2km)</p>



巣箱づくり



パネル展示

	 
<p>7 . 事業成果</p>	<p>今回、朝日ヶ丘班が牧柵補修に使った板材は、4 mの長さで厚味30 mm を500枚使用しました。班内のボランティア組織の景観委員会メンバー15名の労働奉仕にて、約1ヶ月間で作業を終えました。</p> <p>私達の地域が昔より地域活動に熱心なのは、私達の生計が清里を訪れる観光客によって成り立つ背景があります。牧柵景観づくりもその大切なテーマです。</p>
<p>8 . 課 題</p>	<p>やはり大きな課題は財源不足です。今回の補助事業といえども、1 / 2の分は地域が捻出しなければなりません。今後、500枚の張り替えが長く続くことを考えますと、@1,000×500枚=50万円の板材の入手には頭を悩ませるところです。</p>
<p>9 . 今後の展開</p>	<p>そうはいつでも歴代の班長(自治会長)は、この事業を朝日ヶ丘班の中心に据えて推進して参りましたし、朝日ヶ丘班が北杜市内の中でも優良な景観地域と推挙されることも私達の日々の努力があります。地元の私たちが、この活動を今後とも支えていこうと確信しています。</p>
<p>10 .補助金について</p>	<p>「一団体一回しか対象にならない」の制約がきびしいところ。</p>

団 体 紹 介

朝日ヶ丘班景観委員会とは

朝日ヶ丘自治会の中で、主に清掃美化活動や牧柵通りの花植え、牧柵補修に自主的に参加してくれている住民の組織で、代表者は班長が務めます。メンバーの多くは、地域の営業するペンションオーナー、レストラン経営者、工房経営者、美術館長等が参加しています。

ホームページアドレス：<http://www.asahigaokahan.com>

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

10

団体名	ミルクウェイコンサート実行委員会
代表者名	委員長 萱沼郁雄
所在地	富士吉田市

1. 事業名	日本の象徴「聖なる富士山」を世界文化遺産に！ ミルクウェイコンサート Vol.3
2. 実施時期	平成18年8月4日(日) 午前11時～午後9時
3. 補助金額	401,000円(事業費803,820円)
4. 協働のパートナー	山梨県政策秘書室
5. 経緯	設立 16年5月1日(活動歴 4年) 第1回 16年7月24日 ジャズコンサート 第2回 17年8月6日 小俣タツロウコンサート 第3回 18年8月4日 近藤等則コンサート
6. 事業内容	<p>(1) 主旨 本事業は、世界文化遺産のコアゾーンとして想定されている「特別名勝富士山」の文化的資産を再認識するとともに、これと連動したイベントを開催し、地域の主体性、熱意、理解を確立しようとするものです。</p> <p>(2) 演目 ・コンサート ・パネル展(文化遺産に係る) ・星の鑑賞会 ・富士山の文化的な歴史の勉強会と登山道の清掃(エコツアー)</p> <p>(3) 出演者 ・エレクトリック・トランペッター 近藤等則 他</p> <p>(4) 参加者数 ・県内外の参加者 250名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>エコツアー出発式</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>回収されたゴミ</p> </div> </div>

	 <p>パネル展示</p>  <p>コンサートの状況</p>
<p>7 . 事業成果</p>	<p>今回は県との協働事業として、富士山世界文化遺産登録に向けたパネル展を実施した。登山者からは「世界文化遺産のことはある程度知っていたが、パネル展を見てより理解が深まった。一日も早く世界文化遺産になるように頑張ってください。私たちも応援します。」と温かい声が寄せられた。</p> <p>県と協働してこうした催しを推進していくことは、世界文化遺産登録への理解の深まりと機運の高揚、さらには必要性の普及と啓発に大きく役立つものと感じた。</p> <p>また、吉田口登山道でのエコツアー参加者が増えることは、大変喜ばしいことで、県外からの参加者が多くなるよう、県においてもこれからはPRをしていただければと思います。</p>
<p>8 . 課 題</p>	<p>道路脇のゴミは少なくなっており、マナーの向上が認められた。また、参加者からは朽ちた神社や山小屋の再建を求める声も寄せられた。</p>
<p>9 . 今後の展開</p>	<p>3回目のコンサートとなる今年は、「日本の象徴『聖なる富士』を世界文化遺産に」をメインテーマに開催した。今年は参加者も多く、世界文化遺産への理解の深まりと機運の盛り上がりを感じられたが、引き続き、世界文化遺産登録へ向け更なる行動の強化を図りたい。</p>
<p>10 . 補助金について</p>	<p>なし</p>

<h2 style="margin: 0;">団 体 紹 介</h2>	
<p>ミルキーウェイコンサート実行委員会</p>	
<p>代表 萱沼郁雄</p>	<p>富士吉田市下吉田14 電話0555(22)1463</p>
<p>設立 平成16年5月1日</p>	<p>活動歴 4年</p>
<p>目的 環境破壊が進む中、一人でも多くの人に自然保護の大切さを訴える。</p>	
<p>会員 個人会員 27名</p>	<p>年会費 10,000円</p>
<p>法人会員 1名</p>	<p>年会費 20,000円</p>

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

①

団体名	NPO 法人子育て支援センター ちびっこはうす
代表者名	理事長 宮澤 由佳
所在地	甲府市上町1246

1. 事業名	やまなしおもちゃセンター事業
2. 実施時期	平成19年10月～平成20年3月
3. 補助金額	900,000円(事業費1,834,000円)
4. 経緯	子育て支援を16年行ってきた中で、様々な問題に直面しているが、その中のいくつかをまとめて一つの事業とすることが出来ないかと考えた結果が本事業になった。まずは「世代間交流の難しさ」。核家族化の進む中で世代間の交流を復活させたい。次に「地域から切り取られている子育て支援」。子育て支援が保育園や児童館などの中のみで行われているので、社会が関心を持ちづらい。次に「身近な支援者不足」、そして「有効活用されにくいおもちゃ」。そこでそれらの課題を解決する方法として「やまなしおもちゃセンター事業」にたどり着いたのです。必要が重なって生まれた事業です。
5. 事業内容	<p><概要></p> <p>少子化のために有効活用されにくくなっているおもちゃを「おもちゃセンター」で回収、消毒、修理し、地域の民家の一部屋に設置した「おもちゃの家」(今年度は10軒を募集予定)で貸し出しをします。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもちゃセンター」の開設・・・おもちゃの回収、消毒、修理 ・「おもちゃの家」の開設・・・おもちゃ広場の開設、おもちゃの貸し出し ・「おもちゃセンター事業講習会」の実施・・・おもちゃの専門家の育成 ・「おもちゃ広場」の開催・・・平成20年3月28、29日に開催予定 <p><目的></p> <p>地域に「おもちゃの家」を開設し、おもちゃ広場やおもちゃの貸し出しをすることによって、おもちゃのリサイクル環境を整えることが出来、乳幼児から物を大切にする事(環境学習)を学ぶことができる。また、「おもちゃの家」を地域の個人宅に開設することにより、孤立しがちな親子の行き場づくりにもなり、子育て支援の拠点のひとつとなることが期待できる。さらには、「おもちゃの家」を利用する親子やボランティアによって人の和が出来、地域の活性化につながっていくことが期待される。また「おもちゃの家」を、現役をリタイヤしたシルバー世代の家に設置することで、</p>

	高齢者の生きがいがづくりとなる。また、病院や公共施設へおもちゃを寄付することによって、「キッズスペース」の確保につながるなど、子育てにやさしい街づくりも推進できる。
6. 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ、途中なので成果とまでは言えないが、多様な要素を含んでいる事業であるため、予想以上に興味を示してくれる人が多く、子育て支援のNPOだけが進めていくにはもったいないと感じている。 ・良いおもちゃの普及を目的に地道に活動している団体や、希少価値なおもちゃドクター、県産材でおもちゃやこども用品をつくる技術を持つ人たち、地域づくりに貢献したいと考えている若者、団体、企業などのひとつひとつの点を線で結んでいける事業だと感じている。
7. 課題	「おもちゃの家」を開設してくれる高齢者を探すのに難航している。やはり、責任問題がネックになっているようだ。そのため、今年度は無理せず、地域のセンターや公民館などの施設も視野に入れながら進めていきたいと考えている。
8. 今後の展開	企業や団体に本事業に賛同していただき、協賛スポンサーとして協力していただきたいと考えている。補助金ありきの事業ではなく、個人や企業に協力していただきながら、個人や企業にも還元できる事業を創出していきたいと思う。
9. 補助金について	事業開始とともに補助金額全額をいただきたい。

団 体 紹 介

平成3年の秋、一人の孤独な新米ママが仲間欲しさに立ち上げた私立の子育て支援センターです。平成14年にNPO法人として認証を受けましたが、その運営費のほとんどを会費、広告収入、イベント開催費等でまかなっています。助成金、補助金等を当てにしないNPOです。

平成20年1月現在40名のスタッフがいます。多くのスタッフが赤ちゃんを連れてちびっこはうすに通っていた会員出身です。「自分が助けられたちびっこはうすで、今度は自分が若い親たちを助けたい」とボランティアで活動しています。最近になって、高齢者や独身者、男性も活動に加わってくれるようになりました。

親子遊びの広場事業「ちびっこはうす」（会員親子 50組）

一時保育事業「ぐらんまはうす」（会員親子 200組）

子育て情報誌発行事業「ちびっこぷれす」（毎月12,000部無料配布）

遊びの出前事業「ちびっこきゃらばん」（年間参加親子 2,500組）

子育てサークル支援事業「ママネットやまなし」（加入サークル 30サークル 500組）

子育て支援テレビ番組事業「ポケットおばさん」（NNS放送にて毎日放送）

子育て支援イベント事業「ウルトラちびっこきゃらばん」（年間参加親子 1,000組）

出前託児事業「ほっぺケア」（年間託児数 2,000名）

まちかど子育て応援団事業（山梨県委託事業）

パパママカレッジ事業（山梨県委託事業）

シルバー人材センター保育補助講習会（シルバー人材センター連合会委託事業）他

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

②

団体名	いのちの授業実行委員会
代表者名	実行委員長 塩澤 清司
所在地	甲府市相生2-2-17 甲府商工会議所会館 3階

1. 事業名	いのちの授業
2. 実施時期	平成19年10月24日・10月25日・11月6日・11月7日
3. 補助金額	327,000円(事業費655,900円)
4. 経緯	<p>昨今、全国的にいじめ・自殺・虐待・少年犯罪・家庭崩壊等の問題が後を絶たない。これは、山梨県においても同様のことであり、この問題の解決が急務である。そして、この問題を解決するためには、子どもや親にいのちの大切さや家族の絆を伝え、地域全体で取り組んでいく必要がある。そこで、人間にとって一番大切ないのちをテーマにした授業を行い、一人一人がかげがえのない存在であることを認識してもらうことで、いじめ・自殺等の抑制・撲滅を図ることを目的とする。</p>
5. 事業内容	<p>1 開催日時・場所・参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日(水) 昭和町立押原中学校 生徒350名(1・2年生) 保護者 約15名 ・10月25日(木) 甲斐市立玉幡中学校 生徒441名(全校生徒) 保護者 約15名 ・11月6日(火) 甲府市中央市中学校組合立笛南中学校 生徒304名(全校生徒) 保護者 約5名 ・11月7日(水) 中央市立玉穂中学校 生徒260名(全校生徒) 保護者 約20名 <p>2 事業概要</p> <p>上記中学校において、特定非営利活動法人「いのちをバトンタッチする会」の代表である鈴木中人氏に「いのちの授業」を行ってもらった(講演時間は1時間)。</p> <p>講演終了後、THE BOOMのメンバーである宮沢和史氏の「ひとつしかない地球」を使用したDVDを放映した。</p> <p>その後、生徒や保護者に感想文を書いてもらった。</p> <p>【いのちの授業について】</p> <p>「いのちの授業」とは、小児がんで死んでいく少女と家族の姿を通じて、生と死に向き合い、いのちとは何か、家族とは何か、生きる意味を自問自答し、いのちの輝きと家族の絆をバトンタッチするというもの。</p>

	
6 . 事業成果	<p>生徒の中には、涙を流したり必死に涙をこらえて聞いている生徒を見受けることができた。また、ほとんどの保護者が涙を流して聞いていた。</p> <p>感想文にも、「感動した。」「親の大切さが分かった。」「無駄のないのちなんてないんだ。」「あらためていのちの大切さが分かった。」などの感想が書かれており、鈴木先生のメッセージは、きっと中学生の心に届いたと思う。</p> <p>「いのち」というテーマを通じて、親子で自殺やいじめについて真剣に考える機会を設けることができたと思う。また、3市1町という複数の自治体を対象とすることで、広域で問題意識を持つことができ、今後複数の自治体、ひいては山梨県全域に波及することも期待できるのではないかと思う。</p>
7 . 課 題	<p>今回、保護者の参加が非常に少なかったのが残念である。平日の昼間という開催日時に問題があったかもしれない。保護者の参加を増やすためには、開催日時を休日にするのがいいのではないか。</p>
8 . 今後の展開	<p>自殺やいじめ対策としては、事後的な規制よりも事前のケアが大切である。そういう意味では「いのちの大切さ」を直接的に訴えかける鈴木先生の「いのちの授業」は有益であったと思う。自殺やいじめをなくすためにも、「いのちの授業」を継続的に行っていききたい。ただし、我々団体としての活動にも限界がある。そこで、これを機に「いのちの授業」の有益性を教育行政に携わる方に理解していただき、毎年1度は何らかの「いのちの授業」を受講できる環境を整えてもらえるよう働きかけていきたい。</p>
9 . 補助金について	<p>補助金のおかげで当事業を行うことができました。ありがとうございました。</p>

団 体 紹 介

いのちの授業実行委員会は、(社)甲府青年会議所の有志を中心に構成される団体です。当実行委員会は、(社)甲府青年会議所が昨年10月に「郷育フォーラム2007」を開催するにあたり、そのプレ事業を実施するために設立された団体です。

今後も、「いのちの授業」を県下全域に広げるべく活動をしていきたいと思ひます。皆様のご協力をお願いいたします。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

③

団体名	NPO法人健康の駅やまなし
代表者名	理事長 五十嵐 有子
所在地	南アルプス市飯野3456-1

1. 事業名	スマイルハーモニーコンサート
2. 実施時期	H19.7.3～H20.2.28
3. 補助金額	198,000円(事業費396,500円)
4. 経緯	<p>楽器や人の声にはそのままでは限界があり、演奏場所はせまい空間が多かった。また、会場によって音響が違い苦労したり、より多くの方々に聴いていただきたいと感じていた。そこで音響設備の充実により、広い空間の中での演奏が出来ると活動が広がる事と、今まで資金が無い為あきらめていた舞台装飾・他の音楽家との共演を実現し、様々な音楽に触れて欲しいという目的の実現を目指す為に補助金をいただくことに決めた。</p>
5. 事業内容	<p>保育所・小学校・施設・病院・地域の方々に生の音楽を届け、音楽の楽しさを知っていただくと共に、ゆったりとした時間の提供をする。</p> <p><アカペラ> 人と人とのつながり、自然・命の大切さなどを詩と共に伝える。</p> <p><フルート&ピアノ> 生の演奏で、クラシックなど身近に感じていただく。</p> <p><ピアノ連弾&2台ピアノデュオ> デュオの音の広がりなどを感じていただく。</p> <p><楽器紹介> 楽器の歴史をわかりやすく、持参した楽器を通して伝える。また、小学校などでは、教科書に掲載されているものや、今から勉強するものを交えながら話していく。リサイクル楽器では自然の大切さ・ゴミ問題も含めての話をする。</p> <p><トーンチャイム> 癒しの楽器のきれいな音色で心を静める。</p> <p><アンサンブル> キーボードが入ることにより様々な音色が加わり、オーケストラの様に大変重厚で輝かしい音楽の提供をする。また、流行りの曲を演奏することにより興味を持たせる。</p>

	
<p>6 . 事業成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサートの始まりは堅い表情の方々も、だんだんやわらかくなり目がキラキラしてくる様子が見受けられました。 ・他の音楽家とジョイントすることによって、なかなかコンサートに足を運べない方々に様々な音楽を提供できた。 ・広い空間、特に野外での演奏も音響が充実したことにより隅々まで音を届けることができた。 ・音響設備の充実、舞台装飾により本格的な会場作りができ、いつも見慣れて場所をコンサート会場のような別空間として提供することができた。 ・感想の中には、「私の生活はいつも速い曲の様に忙しいです。でも今日はゆったり出来ました。」「音楽が苦手だったけれどもコンサートを聞いて音楽が好きになりました。」という声も寄せられました。 ・聴いてくださった方が、他の方にパルフェを紹介して下さり活動範囲が広がった。 ・助成をいただいたことにより、新たな形で活動できるようになった。今後も場所を選ばず演奏できることにより、広範囲に癒しの音楽を提供できることが期待される。
<p>7 . 課 題</p>	<p>活動費を自分たちで全て持ち出しているが、長く続けるためにも資金が回って来ることが必要だと、節に思う。</p> <p>機材・楽器の移動や搬入がとても大変なので、演奏に力を入れる事が出来る様にこの事も今後の課題として考えたい。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>金銭的だけでなく、心が寂しい方が世界にもたくさんいると思うので地域の方々から世界の方々に音楽を届けに行きたい。</p> <p>音楽を通して世界が一つに、平和になる事を望み活動を広げていきたい。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>もともと自己資金がない私達だが、半額の助成金だとあと半額を捻出するのが物凄く大変でした。少額でも、全額の助成金にして欲しい。</p>

団 体 紹 介

【健康の駅やまなし】

- * 療養児・障害者・地域の親子への子育て支援 <けんけんぱの会>
- * 音楽を通してやさしい時間を提供する <Parfait～パルフェ～>
- * 障害児活動支援 <わおんの会>

～やさしい生活の世界をめざして～

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

④

団体名	山梨ロールプレイ研究会
代表者名	代表 福田 聖子
所在地	中巨摩郡昭和町

1. 事業名	心理劇「虐待・その背景と構図から予防を考える」
2. 実施時期	平成20年1月20日(日) 13:00~16:00
3. 補助金額	375,000円(事業費750,000円)
4. 経緯	<p>山梨ロールプレイ研究会は、「家族システム」をよりよく機能させることによって、子ども達がのびのびと真っ直ぐ自分らしく育っていくと考えている。「家族システム」とは、誰がよい・悪いでなく、家族(特に大人)が互いに支え合い、分かり合う中でとられるバランスでもあると考える。</p> <p>社会的に問題になっている家族問題を個々の家族の心的背景や家族のありかたから捉え、解決していこうとしているのが、前2回及び今回の公演である。今回は、地域でも大きな課題となっている「虐待」を取り上げた。</p>
5. 事業内容	<p>ロールプレイによる心理即興劇 虐待 HELP ME 誰か私をわかって 目的 「虐待事例から家族システムを考える」</p> <p>実際の虐待事例をロールプレイによる心理即興劇で立体的に見てもらう。虐待の実際・世代連鎖・心的背景を探り、「システム・機能」面から家族のありかたや、家族・学校・地域からの支援を考えてもらう。</p> <p>内容</p> <p>(1) 第一部 実際の虐待事例を劇で紹介 小4の娘の母えり子。我が子を愛し、よい子に育てようと努力しているのに、手を挙げたら止まらない。誰か助けて、この手を止めて、心の中で叫ぶのに我が子を叩いてしまう……。えり子の日常の家庭を紹介した劇である。</p> <p>(2) 第二部 参加者からの質問・意見から即興劇 即興劇を観るだけでなく、参加者からの意見を受け、即興劇に参加し、えり子や母・父役を演じることで、関係改善のための対応の方法について学ぶ。</p> <p>(3) 第三部 参加者同士の意見交換・感想のわかちあい 参加者が即興劇の感想を出し合い、自分たちの生育歴をふりかえり、自分自身に結びつけることによって、「虐待」の背景や、問題解決について意見交換を行う。</p>



<p>6 . 事業成果</p>	<p>参加者の感想からもわかるように、「家族システムが機能している家庭」の大切さがわかってもらえたと確信する。また、虐待の起きる背景を家族一人一人の力動関係から理解してもらえた。今回の公演事業の成果は大きかったと言える。</p> <p>虐待は虐待される方にも、している方にも心の支援が必要であることを今公演で訴えたかった。それを充分感じとってもらえた。虐待母えり子の生育歴や現在までの心理面から、えり子が我が子に手を上げ続けるのを自分で止められないでいる苦しさを会場が涙しながら感じとっていた。</p> <p>「ロールプレイによる心理即興劇」は、事例を立体的に理解し、深部まで探るのに大いに役立った。また、会場全体が心を共に揺さぶられ、共にその想いを共有しながら解決を探っていくという点でも大きな成果を残した。</p>
<p>7 . 課 題</p>	<p>(1) もっと広く知ってもらいたい、多くの人に参加してほしい。</p> <p>(2) 日常活動に今後「ミニ心理即興劇」活動を取り入れていきたい。</p> <p>今後、身近な小さな事例での心理即興劇で、社会貢献できると感じる。山梨ロールプレイ研究会の次年度の活動計画に入れていきたい。</p> <p>(3) 連携システムの構築・場の設定</p> <p>事例を共有し気持ちが一つになることによって、様々な支援の手だてが生み出される。各支援団体が一堂に集まる機会が、今公演ができないだろうか。行政からの働きかけを期待したい。山梨ロールプレイ研究会自体も今後の公演には、各種支援団体に呼びかけをしていきたい。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>2年おきの公演(社会問題をテーマに、家族のありかたを訴えていきたい。)</p> <p>「ミニ心理即興劇」活動</p> <p>主に保護者を対象に、子育てに関わる問題を取りあげていきたい。「ミニ心理即興劇」取り入れていきたい。</p> <p>行政との連携</p> <p>日常活動</p> <p>月に一度の定例学習会。ロールプレイを通して、様々な葛藤と向き合い自分らしく生きていく支援を大人向けに行っている。今後も続けていきたい。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>とても有り難い。心から感謝している。今後も是非この制度を続けてほしい。</p>

団 体 紹 介

設立7年目。子育て支援が目的。次代を担う子ども達の健やかな成長のためには、子どもをとりまく家庭がよりよく機能していることが大事と考える。さらに、大人自身が生き生きと自分らしい人生を伸びやかに歩いて常に輝いてほしいと考える。

連絡・問い合わせ先：山梨ロールプレイ研究会 代表 福田聖子

(事務局：昭和町築地新居638 055-275-1660 FAX共 留守電に用件と共に連絡先等入れておいてもらい、追って事務局から連絡させてもらう。)

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑤

団体名	NPO法人文化資源活用協会
代表者名	理事長 浅川 英光
所在地	北杜市須玉町下津金 2963

1. 事業名	金比羅さん交流「むかしゃあうまかった」商品再開発支援事業
2. 実施時期	平成19年7月～平成20年3月
3. 補助金額	300,000円(事業費622,000円)
4. 経緯	<p>昔から「一生に一度は金比羅さん参り」と多くが願う金比羅宮。それにあやかった「こんぴらさん」が、北杜市須玉町津金地区と、高知県四万十にもあることをきっかけに「金比羅さん」交流が生まれました。</p> <p>年間12万人が訪れる津金地区は、昭和、大正、明治校舎が並び、交流の盛んな地域です。そこで、四万十との交流を活かし「人」から「文化」、「食」の交流へと発展させ、力を合わせた津金地区の商品開発を行います。四万十の豊富な商品開発の経験・食材・人材と、津金の「むかしゃあうまかった地域の食」をベースに、「須玉の食文化を考える会」のメンバーの協力を得て、商品開発を行いたいと考えます。そしてこの津金の景観を維持していく方法も考えていきたいと思ひます。</p>
5. 事業内容	<p>2007.8.6 津金の食を考える検討会を開催 郷土食・おねりにちなんで「おねり会」と名づけて、定期的集まりを開催</p> <p>2007.9.13 第一回おねり会 津金の素材・情報の収集、並びに四万十の商品開発を学ぶ。 講師：「じゅうみん株式会社四万十ドラマ」：畦地履正氏</p> <p>2007.11.2 第二回おねり会 郷土食を持ち寄り検討、試作品作り・試食 四万十の商品デザインを学ぶ。 講師：「デザイナー」：迫田司氏</p> <p>2007.11 津金の食材を基にした試作づくり・試食会 モニター用アンケート作成 (山梨大学大学院大山研究室協働)</p> <p>2007.11.25 第三回おねり会 商品を決定して試食会・モニター会の開催 りんご祭りにおいて、山梨大学大学院大山研究室を中心に、学生によるモニター会を運営</p>   

	<p>2007.12.26 津金の食材から商品作り - りんごジュースの製造</p> <p>2007.12 末 モニターアンケート結果をもとに検討・決定 商品コンセプトの完成「うらやましいつがね」プラント・コンセプト</p> <p>2008.1～2 商品デザインの検討・製品の完成</p> <p>2008.3 包装紙の完成・商品の完成。報告書の完成・提出</p>
6 . 事業成果	<p>まず、地域住民参加の集まり「おねり会」を作った成果は大きい。先進地・四万十の商品開発実例やワークショップ、学生の参加は学ぶものが大きい。会では、豆や粉類など素材を検討し試作が重ねるなか、昔から家庭で楽しまれた食べ物にも、アレンジされ使われているりんごを素材として見直し、特産りんご栽培から、これからの農業のあり方を考えることが出来ると考えた。</p> <p>そこで素材の新しい組み合わせに加えて、津金の農業のこれからのあり方をメッセージに載せた商品として、津金産りんごの手搾りジュースを中心に、商品を作り上げているところである。</p>
7 . 課 題	<p>地域の商品には、しっかりとしたコンセプト・地域の物語が必要ということを感じます。商品の価値を高めると同時に、次の商品が出来上がっていくような、また、素材の差別化を通して、地域の農業が時代のニーズにあう方向にさらに向かうよう、生産者を含めた取組みに一步進めていきたい。</p>
8 . 今後の展開	<p>単年度の事業で終わってしまわないように、四万十との交流を続けながら、食材・知恵・人が行きかう中で、商品開発を行いたい。また、食から素材の開発へ取り組みたい。有機栽培の方法を広める、休耕田に広げるなど、地域産業につながる取組みを広めること、携帯電話・ネットなどへの情報提供の形を構築していきたい。</p>
9 . 補助金について	<p>補助金は大いに役立ちました。単年度ではなく、複数年補助金が出ると、成果がでてくるのではないかと思います。年々額が減ってもよいので、フォローしていただけると心強いです。</p>

団 体 紹 介

有形無形の埋もれた地域の資源、個人の経験や技術を有効に活用することを目的に設立。北杜市須玉町津金地区を拠点に「うらやましいつがね」をキーワードに以下の事業を実施しています。

- ・ 古民家「なかや」再生修復事業
- ・ 北杜市「空家バンク」事業協力
- ・ うらやましいつがね「商品開発」事業
- ・ 須玉歴史資料館 指定管理運営事業
- ・ 地域文化資源活用事業
- ・ IT事業 ほか

4年目を迎える空き家活用事業から、「うらやましいつがね」へ空き家調査から始まり今年で4年目を迎える活動は、古民家「なかや」修復活動を軸に、地域の協力で、空き家を短期滞在の場所として提供・活用しています。今後、体験支援プログラム、古民家の活用など、「なかや」を中心に、地域から学びネットワークから「循環型」の地域づくりを目指します。

<http://www.stm.ne.jp/~bunka>

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑥

団体名	山梨県作り手の会
代表者名	会長 宮川 守
所在地	甲府市

1. 事業名	「水晶復権」 - 山梨の水晶を知る・見る -
2. 実施時期	平成19年9月30日、10月28日
3. 補助金額	215,000円(事業費:430,000円)
4. 経緯	<p>県外の人たちに「山梨の特産は何か」と問えば、「水晶」が常に上位に挙げられる。しかし、県内においては、すでに昔の産物のように扱われているのが現実である。</p> <p>そのため、私たちは「水晶復権」を目指し、県民に向けて広く水晶の現状と水晶鉱山の地域資産価値を伝えていく必要があると考え、今回のチャレンジ事業支援を活用するに至った。</p>
5. 事業内容	<p>「山梨の水晶」シンポジウム</p> <p>水晶に関して造詣の深い3名の先生(山梨大学 角田先生・山梨学院大学 十菱先生・鉱物研究所 堀先生)を講師として、「山梨の水晶」の歴史的・鉱物学的・資産的価値について考えるシンポジウムを開催する。何より、「山梨の水晶」の魅力を多くの人に知っていただき、理解を深めてもらうことを目的とする。</p> <p>旧鉱山見学</p> <p>「山梨の水晶」がブランドとしての可能性を有する最大の要因は、旧鉱山が現存している点である。実際に目にすることで、多くの人にその資産価値・観光価値を認識してもらうため、県内でも最大規模の旧乙女鉱山の見学会を実施する。</p>
6. 事業成果	<p>シンポジウム(9月30日)</p> <p>プレゼンの際、参加人数を100名と予定したところ、「水晶でそんなに人が集まるのか」とのご指摘があったが、チラシ配布やマスコミ宣伝等あらゆる努力を重ねた結果、当日は120名ほどの人が集まった。これは、「水晶」の持っている魅力と認知度の高さゆえと考えられる。</p> <p>3人の講演を通して、「山梨の水晶」の歴史的・資産的価値について</p>



	<p>て理解を深め、また、その後の討論会では参加者一人一人の「水晶」への思いを率直に話し合うことができた。</p>  <p>旧鉱山見学（10月28日） 当日は天候にも恵まれ、参加された人たちは、初めてみるその景観に、それぞれの感想を述べてくれた。中でも、「鉱山跡の保存・活用が必要」といった意見は、当方の目的に合致したものと受け止めている。</p> 
<p>7 . 課 題</p>	<p>今後、事業の目的をよりいっそう広げていくことが、最大の課題と考えている。今回の活動が、「山梨の水晶」への理解を深め、それがもつ地域資産としての力を再認識し、ひいては観光産業振興と地域活性化を達成していく一助となるよう努めたい。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>「山梨の水晶」を考える人たちを核として、産業界はもとより広く県民に呼びかけ、県民自身の力で地域の活性化を得られるよう活動していきたい。まずは、会のメンバーだけでなく、今回の事業に参加してくれた人たちの意見を伺いながら、より大きな広がりを作っていきたいと考えている。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>小さな会であるにもかかわらず、貴重な補助金の力で「大きな事業」を成し遂げられたと実感している。</p>

団 体 紹 介

県内の伝統的産業の再生と、その技術の継承・発展及び後継者の育成を目的に、2004年に発足しました。地域産業の発展は、地域に根付いた歴史ある産業の活性化を抜きには語れず、地域もまた、それらなしに再生することはできないとの認識を持って活動しています。現在は、主に印章・水晶関係を中心として、県内外で展示販売会等を行っております。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑦

団体名	ゆりの木商店会
代表者名	萩原 章
所在地	山梨市

1. 事業名	山梨市まちづくり推進事業
2. 実施時期	平成19年6月～平成20年3月
3. 補助金額	320,000円(事業費690,000円)
4. 経緯	<p>平成17年に、旧山梨市、旧牧丘町、旧三富村が合併し、新山梨市が誕生した。新山梨市のまちづくりは、山梨市駅前の区画整理事業を終え、中心市街地の活性化を進めているが、商業環境は厳しい現状にある。</p> <p>こうした中、自然環境、歴史・文化、果樹園など地域資産を活かし、広域的交流を促す市民活動を展開し、地域活性化と今後のまちづくりの推進方法について検討してきた。</p> <p>そこで、平成19年の大河ドラマが、風林火山に決定されことに合わせて、山梨市の住民と都市の人々の交流イベント「武田信玄黄金街道口マン村市場」を開催することとなった。</p> <p>また、地域活性化につながる課題解決のため、山梨市商工会や住民によるワークショップを開催する。</p>
5. 事業内容	<p>「武田信玄黄金街道口マン村市場」</p> <p>笛吹川フルーツ公園において、市民、周辺市町村、都会の人々との交流イベントを開催する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域資源の展示で山梨市をアピールする(山梨市の観光マップ、商工会のマップの配布) 2. 武田信玄公とゆかりの深い品々を展示することにより、歴史との関わりをイベントを通じ、情報発信する。 3. ドームで大正琴による演奏を行う(高石正三:勘助風林火山) 4. 山梨市を代表する民芸品を来客者に手作り体験をしてもらう。 5. フルーツ公園内をチンドン屋に練り歩いてもらう。 6. 来客者に山梨市のアンケート調査を実施する。 <p>地域活性化ワークショップ</p> <p>地域住民の生活・環境・文化の向上、地域活性化につながる課題解決のため、山梨市各商工会や住民によるワークショップを実施する。</p>

<p>6 . 事業成果</p>	<p>「武田信玄黄金街道口マン村市場」 この催しで約 1,300 人の来客者が楽しんでいただき、大変喜ばれた。歴史展示や民芸品の手作り体験などを通じて、県内外の来客者と交流し、山梨市の文化をアピールすることができた。 アンケート調査も実施し、これからの山梨市のまちづくりに大変参考になりました。 アンケート調査結果の概要 ・来客者の 80%以上は県外者で、多い順位に、東京、埼玉、神奈川県、長野、静岡の順位となった。 ・山梨市（フルーツ公園）を訪れた目的は、多い順位に、観光、フルーツ公園、武田信玄黄金街道口マン村市場の順となった。 ・来客者がフルーツ公園以外に行く場所は、多い順位に、フルーツ狩り、温泉、ワイナリーの順となった。 ・この他感想として 「山々に囲まれ富士山が見える景観は素晴らしい」 「果樹園が盆地に広がり多くの果実が収穫できる事が素晴らしい」といった意見があった。 地域活性化ワークショップ 中小企業総合事業団に講師をお願いして、山梨市駅前の中村邸跡地の利用と商店街の活性化をテーマに勉強会を開催した。 この勉強会の中で、都市住民と地域住民が交流できる施設の必要性が検討され、山梨市に対して交流センターの設置を提案することとなった。</p>
<p>7 . 課 題</p>	<p>笛吹川フルーツ公園を有効活用して、テーマ毎に活動することが地域活性化に繋がるのではないか。</p>
<p>8 . 今後の展開</p>	<p>地域の歴史・文化の情報発信、地場産業の研究開発による地域ブランドの構築、交流による経済発展、市民意識の意識改革を一層進める必要がある。</p>
<p>9 . 補助金について</p>	<p>資金の確保に苦慮したことから、全額を概算払いができるようにしていただきたい。</p>

団 体 紹 介

山梨市駅前の商店街の中で、小規模な商店街ではありますが、その分まとまっており、いろいろな事業を行っています。今年度も第12回サマー縁日の開催、街並みを明るくする提灯の設置、イルミネーションの設置、講演会への参加、勉強会の開催等を実施しました。

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑧

団体名	NPO法人 大学コンソーシアムやまなし
代表者名	理事長 貫井 英明
所在地	甲府市武田4 - 4 - 37

1. 事業名	中心市街地における大学合同イベントの事業モデルの構築 花菱祭 2007 ~百花繚蘭~ の開催
2. 実施時期	平成19年10月13日(土)10:00~20:45
3. 補助金額	350,000円(事業費700,000円)
4. 協働のパートナー	山梨県商工労働部商業振興金融課
5. 経緯	本事業は、甲府市中心市街地を対象に、公募により選ばれた「学生合同イベント実行委員会」を主体として、県内大学合同のイベント「花菱祭 2007 ~百花繚蘭~」を計画し、実施した。さらに、このイベントを通して、今後の甲府市中心市街地における学生との協働によるまちづくりの基盤を構築することを目指すとともに、本イベントを今後の学生との連携による中心市街地活性化のモデルとして捉え、その成果を県内各地の中心市街地における事業に活かすことにより、市街地活性化の促進に寄与することを目指して行われた。
6. 事業内容	<p>【イベント準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生合同イベント実行委員公募・選定(大学コンソ) ・ イベント素案の検討、名称「花菱祭」の決定(実行委員会) ・ 企画内容の協議、助言(県商業振興金融課、甲府市、甲府商工会議所) ・ 開催会場の選定と協力依頼(県商業振興金融課、山梨中央銀行等) ・ 企業への協賛、後援等の依頼(実行委員会、大学コンソ) ・ 学生スタッフの募集及びプレ・イベントの開催(実行委員会) ・ 広告の掲載、チラシの作成・配布(甲府商工会議所、実行委員会) <p>【イベント開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会場設営(実行委員会+学生スタッフ) ・ 各会場におけるイベントの開催(実行委員会+学生スタッフ) <ul style="list-style-type: none"> ・ キッズパーク：甲府市中央公園横県有地 ・ 芸術イベント：山梨中央銀行本店東側広場 ・ 早食いイベント：銀座通り二丁目よつびし総研前 ・ ライブイベント：桜座 ・ 学生結婚式：かすがもーる北部一帯 <p>【イベント終了後】・ 成果報告書の作成(実行委員会)</p>

<p>7 . 事業成果</p>	<p>【キッズパーク】 昔の遊びなど 来場者数：約 50 名</p> <p>【芸術イベント】 展示、バルアートなど 来場者数：約 60 名</p> <p>【早食いイベント】 早食いコンテスト 参加者数：約 30 名</p> <p>【ライブイベント】 高校、大学バンド演奏 来場者数：約 70 名</p> <p>【学生結婚式】 結婚式の開催 来場者数：約 70 名</p> <p>【協働の成果】 山梨県商業振興金融課より、事業の準備から実施までの間に貴重な助言が得られ、それらを踏まえて他の関連団体と連携を図りながらイベントを実施することが出来た。</p>
<p>8 . 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 許認可機関（自治体、警察など）との綿密な事前調整の実施（開催直前まで企画内容や会場の変更などが発生した） ・ スケジュール・予算管理の徹底（学生主体で実施したため、全体的な管理が甘く、スケジュールの遅れや変更などが目立った） ・ 企業との連携の強化（学生が自主的に企業との連携を行ったが、大学コンソとして組織的に連携を進めることが必要） ・ ゆとりある準備期間の確保（実行委員会設置からイベント実施まで 2 カ月半ほどで、準備のための十分な時間がなかった）
<p>9 . 今後の展開</p>	<p>今年度の経験や実績を生かして、平成 20 年度も継続して、甲府市中心市街地を会場として「花菱祭 2008」を開催する予定である。</p>
<p>10 . 補助金について</p>	<p>本イベントは、大学コンソーシアムによる学生交流事業として初めてのものではあったが、本補助金により大規模に実施することが出来た。しかし、補助金の採択決定が遅くなったことで、事業全体のスケジュールが非常に厳しかったことから、十分な準備期間を確保する上でも、早めに事業採択を決定していただけると大変ありがたい。</p>



団 体 紹 介

平成 11 年 7 月 26 日に、時代の変化に的確に対応し、山梨県の地域特性に適合した高等教育機関の在り方や地域との連携方策等広範な検討を行うとともに、研究成果の地域への還元等の事業を実施することを目的として、「山梨県高等教育機関連絡協議会」が設立された。その後、同協議会に設置された大学コンソーシアム設立検討会議による検討を経て、平成 18 年 9 月 21 日に、同協議会を発展的に解消し、「大学コンソーシアムやまなし」が設立され、同年 11 月 27 日には、山梨県より特定非営利活動法人として認証された。

URL : <http://www.ucon-yamanashi.jp>

地域活性化促進事業費補助金 取組事例

⑨

団体名	NPO 法人富士山自然学校
代表者名	理事長 渡辺長敬
所在地	南都留郡山中湖村平野 4 7 9 - 2 山中湖交流プラザ「きらら」内

1. 事業名	山中湖村大平山におけるエコツーリズムの推進事業
2. 実施時期	平成19年6月20日～平成20年3月31日
3. 補助金額	492,000円(事業費985,000円)
4. 協働のパートナー	山梨県(観光資源課・みどり自然課)
5. 経緯	山中湖村大平山地域は優れた自然環境が残されているが、特に草原の減少傾向が目立ち、このまま推移すると森林化が進み生態系にも影響を及ぼす危険性もある事から、地域資源としての活用を図る事で、大平山地域全体の環境保全と適正な利用によって、地域の活性化と重要な地域資源の保全を図る事及び地域住民の環境保全と資源の適正利用に向けた意識醸成を目的に本事業を展開する事となった。
6. 事業内容	<p>事業者部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大平山地域全域の植生調査及び自然生態系・景観資源調査を行い当該地域の現状を把握する。 ・自然生態系調査・景観等資源調査の結果を集約し稀少植物や生態系の保全と適正な利用の両立を図るための素案を作成し、提案する。 ・当該資源の利用と保全に向けたルールや運用体制のモデルを作成し提案する。 ・貴重な自然環境や地域資源を活用し発信出来る人材(ガイド等)の養成プランを作成し提案する。 <p>協働部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の進展に沿って関係行政機関(山梨県県民生活課・観光部観光資源課・みどり自然課・林務環境部等)との連絡調整を図る。 ・事業実施に伴う諸規定・許可申請等の情報提供・指導を願う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>大平山(山中湖から)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調査の様子</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>大平山から富士山・山中湖を臨む</p> </div>

7 . 事業成果	<p>調査結果の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域は、事業報告書に示す通り優れた自然環境が残された生物多様性に富んだ地域であり、山梨県及び環境省の絶滅の恐れのある野生生物（レッドデータ）に挙げられる多くの生物が確認された。 ・当該地域の稜線や各山の山頂では、富士山と山中湖のビューポイントも多く存在し、特に10月・2月までの4ヶ月間に渡って富士山頂に沈むダイヤモンド富士のビューポイントとも重なる重要な観光資源として活用が期待出来る。 ・当該地域には、山中湖と富士の景観形成上重要な景観樹木や文化財自然記念物も含まれる地域で、今後の地域観光資源として利活用と保全管理が重要となる。 <p>事業の推進に当たって</p> <p>エコツーリズム推進の取り組みが、行政機関との密接な協働体制のもと、地域での取り組みが住民主体で進められるきっかけが構築出来た事は本事業の大きな成果と言える。</p>
8 . 課 題	<p>このような事業を推進する場合の最も困難な要素は、1自治体だけでは取り組みに限界があり、法との整合性・整備資金・許認可等についての自治体と上部行政機関との協働体制の構築が最も重要な要素である。</p>
9 . 今後の展開	<p>山中湖村の推進する「全村公園化構想」を基軸とした「エコツーリズム推進法」の活用によって「山中湖村エコツーリズム推進全体構想」の構築を進め、関係省庁へのエコツーリズム推進全体構想の認証を申請し、地域に残された重要な特定観光資源の活用と保全管理計画の策定・実施によって、山中湖村の「山中湖村全村公園化構想」の完成を目指す。そのためには、今後山中湖村の住民と共にエコツーリズムの推進に向けて、地域全体で協働に取り組む体制を構築し、特定観光資源の保全と利用に向けた保全管理計画の策定と実施管理に取り組んで行く必要がある。したがって、実行組織と取り組む為の人材の養成・確保が今後大きな課題となる。</p>
10 .補助金について	<p>事業の展開は単年度のみでは完成することは困難な事業が多く、事業の内容によっては複数年継続助成の検討も必要と考えられる。</p>

団 体 紹 介

山中湖村の運営する山中湖交流プラザ「きらら」自然公園部門を村から委託され管理運営を行っている。管理運営のみでなく地域の活性化に向けて様々な提案や地域の資源調査・村及び村内団体の主催事業等に積極的な支援活動を行い、地域との信頼関係の構築を進めている。冬期イベントや冬期イベントの活用を進め山梨県観光部観光資源課との協働による「富士の国やまなしロングステイ促進事業」を展開し実績を挙げている。

これらの事業展開に最も重要な人材の養成を最重要課題と捉え2003年より毎月2回延べ130回以上の人材養成講座を行い、人材の確保と養成に取り組んでいる。

NPO 法人富士山自然学校設立 2005年8月11日（理事長 渡辺長敬）スタッフ23名

